

# 授業科目 NO. 611 統合看護学実習

## Integrated Nursing Practicum

授業の形態： 実習  
 単位数（時間数）： 2単位（90時間）  
 開講年次・学期： 4年次・前後期  
 必修・選択の別： 必修  
 キーワード： 看護実践力、多様な看護の場、多職種協働

### 1 金沢医科大学看護学部への到達目標（全科目共通です）

- ① 豊かな人間性と倫理観
- ② 看護学の知識と技術、及び実践力
- ③ 地域志向を視野に入れた専門性の獲得
- ④ 生涯学習能力
- ⑤ 国際的視野の獲得

### 2 学 修 目 標

#### 1) 一般目標(GIO)

これまで学修した知識・技術・態度を統合し、多様な看護の対象に、多様な看護の場で、また、多職種と協働して看護を実践する能力を修得する。また、看護専門職として主体的に学修・行動できる自己管理能力を修得する。

#### 2) 行動目標（SBO）※カッコ内の数字は上記の金沢医科大学看護学部への到達目標との関連を示す。

- (1) 既習の知識・技術・態度を統合し、対象の健康課題を解決するために必要な看護が実践できる。(①②③)
- (2) 対象の健康課題を解決するために、多職種と連携し、看護が実践できる。(②③)
- (3) 看護専門職者として主体的に学習・行動できる。(④)

### 3 学 修 内 容

実習の内容については、実習要項に示す。

### 4 評 価

| 評価項目 | 評価割合 |
|------|------|
| 実習成績 | 100% |
| 合計   | 100% |

（特記事項）

科目群ごとの実習内容・方法によって、点数配分は異なるため、評価項目と点数配分、評価基準は、各担当者で示す。

## 5 教育担当者

科目責任者：【平松知子】

|       |     |    |        |
|-------|-----|----|--------|
| 基礎看護学 | 責任者 | 教授 | 松井 希代子 |
| 精神看護学 | 責任者 | 教授 | 長山 豊   |
| 成人看護学 | 責任者 | 教授 | 村角 直子  |
| 老年看護学 | 責任者 | 教授 | 平松 知子  |
| 母性看護学 | 責任者 | 教授 | 神崎 光子  |
| 小児看護学 | 責任者 | 教授 | 吉川 由希子 |
| 在宅看護学 | 責任者 | 教授 | 前田 修子  |

|       |               |       |               |
|-------|---------------|-------|---------------|
| 教 授   | 松井 希代子（基礎看護学） | 准 教 授 | 蘭 直美（在宅看護学）   |
| 教 授   | 長山 豊（精神看護学）   | 講 師   | 新井 里美（基礎看護学）  |
| 教 授   | 村角 直子（成人看護学）  | 講 師   | 宮崎 彩乃（基礎看護学）  |
| 教 授   | 清水 玲子（成人看護学）  | 講 師   | 釜谷 友紀（基礎看護学）  |
| 教 授   | 平松 知子（老年看護学）  | 講 師   | 金松 瑞代（成人看護学）  |
| 教 授   | 神崎 光子（母性看護学）  | 嘱託講師  | 直井 千津子（老年看護学） |
| 教 授   | 吉川 由希子（小児看護学） | 助 教   | 白藤 友紀（基礎看護学）  |
| 教 授   | 前田 修子（在宅看護学）  | 助 教   | 山口 千夏（精神看護学）  |
| 准 教 授 | 宮永 葵子（基礎看護学）  | 助 教   | 大嶋 舞香（母性看護学）  |
| 准 教 授 | 大江 真人（精神看護学）  | 助 教   | 小村 未来（小児看護学）  |
| 准 教 授 | 北村 佳子（成人看護学）  | 助 教   | 横山 裕介（小児看護学）  |
| 准 教 授 | 浅野 きみ（成人看護学）  | 助 教   | 伊藤 真夕（在宅看護学）  |
| 准 教 授 | 橋本 智江（老年看護学）  | 助 教   | 清嶋 茜（在宅看護学）   |
| 准 教 授 | 中道 淳子（老年看護学）  | 助 手   | 寺口 由紀（精神看護学）  |
| 准 教 授 | 山崎 智里（母性看護学）  |       |               |

## 6 教育担当者の実務経験

担当教員は、看護師としての実務経験を有している。

## 7 教 科 書

関連する実習の教科書

## 8 推 薦 参 考 書

関連する実習での参考図書、担当する教員から紹介されたもの、各自のプレゼンテーションのテーマに合わせて、図書館・インターネットの文献検索等で積極的に情報を検索し調べる。

## 9 準備学修に必要な時間及び具体的な学修内容

1) 本科目は、看護実践力探求と連動して実施するため、看護実践力探求でのプレゼンテーショ

ン・レポート作成などに主体的・積極的に参加する。

- 2) 多様な場での看護実践となるため、実習施設は科目群や学生の看護実践課題によって多岐に渡る。実習施設の場所、概要・特徴、交通手段などは自ら確認して実習に臨む。

## 10 課題（試験やレポート等）に関するフィードバック

実習に関する到達度は、担当教員、臨地実習指導者がフィードバックする。

## 11 履修上の注意事項

- 1) これまでの実習科目での学修や体験に基づいた各自の看護実践課題をテーマにして行う実習であるため、自身の看護実践への振り返り、課題解決への取り組みが求められる。

## 12 オフィスアワー等

実習中の担当教員との連絡方法を確認しておくこと。